

研究者に会いに行こう！
日本の学術研究を支える大学共同利用機関の

研究者博覧会



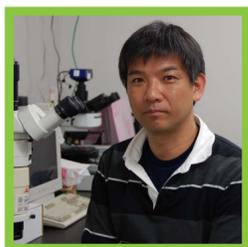
2014年11月22日(土)

東京国際フォーラム B7にて開催

入場無料・予約不要

研究者が
研究と自身のキャリアパスを語る
トークセッション (13:00~16:00)

研究所の活動を紹介する
ブースセッション
(12:00~17:00)



自然科学研究機構 基礎生物学研究所

教授
藤森 俊彦

「動物のからだの形づくりを探る」

キーワード：発生生物学、細胞分化、顕微鏡技術、哺乳類胚、工作



人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

教授
阿部 健一

「僕が熱帯林研究を続ける理由(わけ)：生物学から人間学へ」

キーワード：フィールドワーク、「森の人」、文理融合、昆虫少年の未来、設計科学



高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

教授
千田 俊哉

「分子と生物：大型放射光で読み解く生命活動のしくみ」

キーワード：分子、細胞、X線、遺伝子、氏より育ち？ 聞き手：宇佐美 徳子



情報・システム研究機構 国立情報学研究所

教授
新井 紀子

「人工知能グランドチャレンジ：ロボットは東大に入れるか」

キーワード：人工知能、自然言語処理、ロボティクス、数式処理、科学技術の社会的影響

出展機関

- 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
 - 国立歴史民俗博物館
 - 国文学研究資料館
 - 国立国語研究所
- 国際日本文化研究センター
- 総合地球環境学研究所
- 国立民族学博物館
- 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
 - 国立天文台
 - 核融合科学研究所
 - 基礎生物学研究所
 - 生理学研究所
 - 分子科学研究所
- 大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構
 - 素粒子原子核研究所
 - 物質構造科学研究所
 - 加速器研究施設
 - 共通基盤研究施設
- 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
 - 国立極地研究所
 - 国立情報学研究所
 - 統計数理研究所
 - 国立遺伝学研究所
- 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
- 総合研究大学院大学

研究者になりたい！
最新の研究成果を知りたい！
研究者と交流したい！
そんな方々におすすめのイベントです。

主催／大学共同利用機関協議会
後援(予定)／文部科学省

<http://www.nibb.ac.jp/inter2014>

お問い合わせ：大学共同利用機関協議会 広報ワーキンググループ事務局
〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38 (基礎生物学研究所)
E-mail: inter2014@nibb.ac.jp TEL: 0564-55-7628

大学共同利用機関シンポジウム 2014
研究者に会いに行こう！
日本の学術研究を支える大学共同利用機関の

研究者博覧会



2014年11月22日（土）東京国際フォーラム B7 にて開催

12:00 ~	受付開始 / ブースセッション開始
13:00 ~ 13:15	トークセッション開始 ご挨拶
13:15 ~ 13:45	トーク1 藤森 俊彦
13:45 ~ 14:15	トーク2 阿部 健一
14:15 ~ 15:00	ブースセッション / トーク登壇者との交流
15:00 ~ 15:30	トーク3 千田 俊哉
15:30 ~ 16:00	トーク4 新井 紀子
16:00 ~ 17:00	ブースセッション / トーク登壇者との交流
17:00	ブースセッション終了 / 閉会

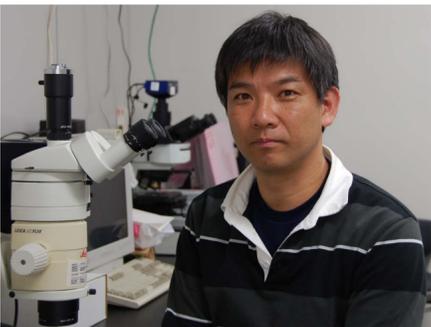


東京国際フォーラム
(東京都千代田区丸の内3-5-1)

JR線
有楽町駅より徒歩1分
東京駅より徒歩5分

地下鉄
有楽町線：有楽町駅(B1F地下コンコースにて連絡)
日比谷線：銀座駅より徒歩5分 / 日比谷駅より徒歩5分
千代田線：二重橋前駅より徒歩5分 / 日比谷駅より徒歩7分
丸ノ内線：銀座駅より徒歩5分
銀座線：銀座駅より徒歩7分 / 京橋駅より徒歩7分
三田線：日比谷駅より徒歩5分

トークセッション登壇者紹介



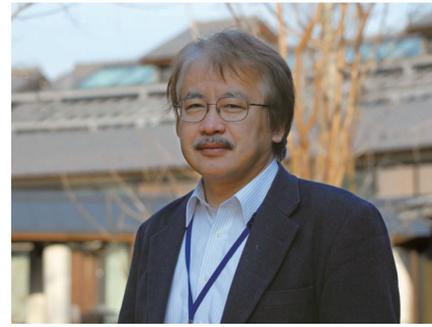
「動物のからだの 形づくりを探る」

藤森 俊彦

大学共同利用機関法人
自然科学研究機構
基礎生物学研究所 教授

高校生の頃に、大学の理学部に入り研究者になろうと考えていました。「緩やかな専門化」の教育方針の下、どうしたものか迷っている時に生物の形の不思議さに気づき、動物の体がどのようにできるかを考える発生生物学の研究の世界に入りこみました。哺乳類の卵からどうやって様々な種類の細胞ができて、体の形が作り出されるかを理解するのが目標です。研究者としての仕事の醍醐味と、発生生物学の面白さを伝えたいと考えています。

長野県出身。松本深志高等学校卒業。京都大学理学部に進学し、1994年京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。米国ハーバード大学研究員、大阪大学細胞生体工学センター助手、京都大学大学院医学研究科助手を経て、2008年より基礎生物学研究所教授。専門は発生生物学。



「僕が熱帯林研究を 続ける理由(わけ)： 生物学から人間学へ」

阿部 健一

大学共同利用機関法人
人間文化研究機構
総合地球環境学研究所 教授

もともとの専門は動物生態学。生物多様性の宝庫である熱帯林にあこがれて、初めてボルネオ島へ行ったのが1981年です。生物相手の調査は楽しかったのですが、急速に消失する熱帯林を前に、しだいに熱帯林をめぐるさまざまな人々に関心を持つようになりました。フィールドワークの魅力と、熱帯林問題の解決のために必要な、理系と文系という分け方では収まらない新しい学問のあり方についてお話ししたいと思います。

愛媛県出身。宇和島東高等学校卒業後、京都大学農学部農林生物学科に入学。その後京都大学東南アジア研究所に助手として採用され、国立民族学博物館、京都大学地域研究統合情報センターを経て2008年より総合地球環境学研究所教授。1981年にマレーシア・ボルネオ島で最初の熱帯林調査を行った。専門は地域研究・環境人類学。



「分子と生物： 大型放射光で読み解く 生命活動のしくみ」

千田 俊哉

大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構
物質構造科学研究所 教授

生物は沢山の分子からできています。特に大切なのは蛋白質と核酸です。これらの分子は離合集散しながら細胞内でシグナルを伝えたり、様々な化学反応を触媒したりして生命活動を支えています。この様な生物の仕組みを原子レベルで明らかにしようというのが現代の生物学で、高校で習う生物学と研究現場の雰囲気は違うかもしれません。トークでは、主として遺伝情報の読み出しの制御に関する研究についてお話ししたいと思います。

静岡県出身。韮山高等学校卒業。東京大学薬学部に進学し、1990年東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了。日立製作所基礎研究所、1992年長岡技術科学大学院博士後期課程入学、1995年長岡技術科学大学院材料工学専攻修了。博士(工学)。長岡技術科学大学工学部生物系助手、産業技術総合研究所主任研究員を経て、2013年より高エネルギー加速器研究機構教授。専門は構造生物学。



「人工知能グランドチャレンジ： ロボットは東大に入れるか」

新井 紀子

大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構
国立情報学研究所 教授

「ロボットは東大に入れるか」は1980年以降細分化された人工知能分野を再統合することで新たな地平を切り拓くことを目的に、2011年に国立情報学研究所が中心となって開始した人工知能のグランドチャレンジです。具体的なベンチマークとして、2016年度までに大学入試センター試験で高得点をマークすること、また2021年度に東京大学入試を突破することを目標に研究活動を進めています。

東京都出身。一橋大学法学部およびイリノイ大学卒業、イリノイ大学大学院数学科修了。博士(理学)。広島市立大学助手、国立情報学研究所情報基礎研究系助教等を経て、2006年より国立情報学研究所情報社会関連研究系教授、2008年より社会共有知研究センター長。専門は数理論理学(証明論)・知識共有・協調学習・人工知能。2011年より人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトディレクターを務める。

大学共同利用機関とは？

大学共同利用機関は、全国の研究者コミュニティのニーズに応え、また、広く海外の研究者とも連携を図りながら、学術研究を推進する中核的研究拠点です。個別の大学では整備や維持が困難な大規模な施設や設備、膨大な学術資料やデータなどの知的基盤、ネットワーク型共同研究や新分野開拓のための中核的機能と場を全国の研究者の利用に供し、効果的な共同研究を実施することで、我が国の学術研究の発展に貢献します。